

## 目次

2025 年度 第 32 回日本教育メディア学会年次大会 御礼	2
第 2 回研究委員会 研究会のご案内	4
第 11 期 第 4 回理事会（臨時メール）議事録	5
第 11 期 第 5 回理事会（臨時・オンライン）議事録	5
第 11 期 第 6 回理事会（定例）議事録	6
2025 年度 定例総会 議事録	8
論文投稿のご案内	10
投稿規程の改訂について	10
学会費納入のお願い、入会者・退会者	13

---

## 2025 年度 第 32 回日本教育メディア学会年次大会 御礼

---

第 32 回年次大会は、2025 年 11 月 1 日（土）・2 日（日）の 2 日間、北海道教育大学函館校で開催されました。学会員（学生含む）115 名、非会員（現職教員含む）47 名、当日の参観者や学生スタッフもあわせると約 200 名の関係者で賑わいました。

1 日目はまず総会に続き、シンポジウムと一般研究発表(1)が行われました。夜には函館港・赤レンガ倉庫での懇親会を開き、会員間の親睦を深めることができました。2 日目には朝一番の SIG 紹介のあと、課題研究発表と一般研究発表(2)および(3)が開催されました。

大会シンポジウムでは「放送開始 100 年記念:放送教育のこれまでと GIGA 第二期でのメディア教育」と題して、放送教育・映像教材の変遷をたどりながら今後のメディア教育の展望が語られました。登壇者には、佐藤知条会員（静岡産業大学）、宇治橋祐之会員（NHK 放送文化研究所）、菅原弘一会員（宮城教育大学）、関谷優衣会員（仙台市立黒松小学校）をお迎えして、豊田充崇会員（和歌山大学）が進行を担当されました。「故きを温ね新しきを知る」場であると同時に、本学会が追究する教育実践とメディアの関わり、そこでの学びの姿を考える良い機会となりました。

課題研究では以下の 4 テーマが設定されました（括弧内はコーディネーター）。まず「デジタル学習基盤を前提とする放送番組・動画コンテンツを活用した教育実践研究」（小林祐紀、木村明憲、白井健大各会員）、「メディア・リテラシーを育成する教育方法・教材開発の可能性」（中橋雄、高橋敦志各会員）、「教育メディア研究における ABR とその評価基準」（川島裕子、岸磨貴子各会員）そして「教育メディア研究におけるメディア社会学的アプローチの再検討」（池尻良平会員）です。各分科会で 3 件ずつ合計 12 件の報告があり、熱心な議論が交わされました。過去の大会での成果を引き継ぎつつ、新しいメディア環境やそれに伴う教育課題にどう立ち向かうのか、そして既存のアプローチを内容・方法面でいかに拡げるのか、果敢に「攻めた」ところに本大会の課題研究発表の意味があったと思います。

2 日間にわたる一般研究発表(1)(2)(3)では、19 の分科会を構成して総計 56 件の研究報告が行われました。会員諸氏が掲げた発表キーワードを拾うと実に幅広いテーマに挑んでいる様子が伺えます（一部抜粋）。「教職課程」「探究」「保育」「生成 AI 活用」「養護教諭」「同僚性」「外国語学習」「保護者」「キャリア教育」「映像視聴」「教科書」「小学校理科」「社会科」「算数」「図工」「メディア芸術」「ID」「校内研修」「対話」「自己調整」「教師教育」「企業研修」「映像制作」「AR」「情報活用能力」「本」「対話」「美術、鑑賞」「学習評価」「自己評価」など。

ちなみに今回の発表テーマが、手元のアプリ（NotebookLM）からどう見えているかを探ってみると、「生成 AI の多角的な活用とリテラシー教育の深化」、「GIGA スクール構想下での情報活用能力とメディア体験の拡張」、「保護者・教員・国際社会を含む教育エコシステムへの射程」といった回答が得られました。みなさまが各分科会でお感じになった感覚、認識と比べていかがでしょうか。私たちが参加者間の対話で得た着想、巡らせた思索、あるいはピンと感じたものや抱いたモヤモヤを、ICT デバイスがどう支援できるのかメディア環境でどう表現しうるのか、興味はまだまだつきません。

昼間の議論のみならず懇親会会場でもテーブル毎に大いに盛り上がり、研究談義に大輪の花が咲いていたと思います。サークルの学生と一緒に「いか踊り」の輪にも加わって頂きましてありがとうございました。

快く座長をお引き受け頂いた会員諸氏、悪天候の中をご参会頂いた発表者、参加者のみなさん、きびきびと動いてくれた学生スタッフ、そして（手前味噌ですが）年次大会実行委員会の抜群のチームワークのもとで本大会を終えることができました。心よりお礼申し上げます。大会での議論が会員諸氏の教育メディア研究に役立つこと、また本学会の発展に貢献できることを切に期待しております。



（文責：北海道教育大学 山口好和）

---

---

## 2025 年度第 2 回研究委員会 研究会のご案内

### テーマ「個別最適な学びと探究的な学び/一般」

---

日 時 2026 年 2 月 22 日(日)

会 場 中村学園大学 2 号館 2501 教室, 2502 教室, 2503 教室

(〒814-0104 福岡県福岡市城南区別府 5 丁目 7-1)

アクセス : <https://www.nakamura-u.ac.jp/outline/map.html>

担 当 山本朋弘 (中村学園大学教育学部)

主 催 日本教育メディア学会

近年、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実、そして「探究的な学び」の深化が、学校教育全体に求められています。GIGA スクール構想の進展により 1 人 1 台端末が整備され、ICT の活用が学習活動の前提となる中、学習者一人ひとりの特性や学習履歴に応じた学びの個別化と、自ら課題を見出し、探究していく学びのプロセスがより重要性を増しています。

しかしながら、こうした理念の実現は容易ではなく、教室の現場では多くの課題が指摘されています。たとえば、学習者の主体性を尊重しながらも、どのように系統性ある学びを保証するのか、また、ICT を活用してどのように探究の深まりを支援できるのかといった点が、実践と研究の両面で検討されています。

本研究会では、このような研究成果や課題を多くの皆様にご報告いただき、今後の可能性を探っていきたいと思います。AI 時代の新たな学びである個別最適な学びと探究的な学びに関する実践研究、開発研究、能力育成、教師教育など、幅広いご発表を募集いたします。

学校の授業に限らず、家庭での利活用も含めて、多面的に議論を深めていきたいと思います。

昨年度より、研究会の発表原稿は J-STAGE で公開されております※。それに伴い、昨年度より申し込み手続き等、変更になっている点がございます。研究会ウェブサイトや申し込みサイトをご確認いただき、ご対応いただければと思います。よろしくお願ひいたします。※ J-STAGE <https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jaemsstudy/-char/ja>

■発表申込締切 2026 年 1 月 16 日(金)

■原稿提出締切 2026 年 1 月 23 日(金)

■参加申込締切 2026 年 2 月 20 日(金)

■参加費 無料

発表者・参加者とも対面・オンラインを問わず、必ず Peatix で参加申込を行ってください。日本教育メディア学会会員でなくとも発表・参加が可能です。皆様にお会いできることを楽しみにしております。

---

## 第11期 第4回理事会（臨時メール）議事録

---

[日 時] 2025年7月11日～7月16日

[場 所] メールによる審議

[出席者] 会長、理事20名

会長：村上正行

理事：寺嶋浩介、永田智子、池尻良平、市川尚、稻垣忠、岩崎千晶、岸磨貴子、工藤雅之、小林祐紀、今野貴之、佐藤和紀、佐藤慎一、泰山裕、高橋純、時任隼平、中橋雄、堀田博史、山本良太、渡邊光浩、渡辺雄貴

＜審議・報告事項＞

（1）教育メディア研究投稿規程の修正について

教育メディア研究投稿規程案の修正について、添付資料に基づき審議した。審議の結果、承認された。

以上

---

## 第11期 第5回理事会（臨時・オンライン）議事録

---

[日 時] 2025年10月2日（木）20:00～20:30

[場 所] テレビ会議（zoom）で結び実施

[出席者] 会長、理事12名、監事1名

会長：村上正行

理事：寺嶋浩介、永田智子、池尻良平、岸磨貴子、工藤雅之、今野貴之、佐藤和紀、泰山裕、高橋純、中橋雄、堀田博史、市川尚、山口好和

監事：浅井和行

事務局：千葉美保子

欠席： 稲垣忠、岩崎千晶、小林祐紀、佐藤慎一、山本良太、渡邊光浩、渡辺雄貴

理事：中川一史

評議員（オブザーバー）：宇治橋祐之、小柳和喜雄、黒上晴夫、鈴木克明、堀田龍也

＜審議・報告事項＞

（1）2024年度事業報告・2025年度事業計画について

2024年度決算に関する報告があった。数字表記の統一、謝金項目への注記追加、学会誌の輸送費とシステム運営費の金額の修正も含め審議の結果、異議なく承認された。

続いて、2025年度の事業計画書および収支予算計画書の報告があった。機関誌発行、年次大会の開催、学術交流等、2025年度収支予算（案）が報告され、審議の結果、2025年度事業計画及び収支予算（案）について、異議なく承認された。

（2）日本教育メディア学会論文賞選考委員会について

原田 真喜子、パリハティ グリズバ、渡邊 英徳「異文化情報の偏りへの気づきを促すワークショップの実践メンターとの多言語横断検索および印象マップの分析を通じて」（『教育メディア研究』31巻2号、pp.15-26）が選出された旨報告があった。

（3）第19回国際会議 ICBL、第12回国際シンポジウム ISET 協賛依頼

2026年7月28日～31日に関西大学で開催される第19回国際会議 ICBL、第12回国際シンポジウム ISETへの協賛依頼があり、異議なく承認された。

（4）その他

2025年度年次大会の準備状況について、会場校の山口理事より報告があった。

企画委員会より、現在企画中のイベント内容について報告があった。

特定課題研究委員会（SIG）より、アートベース・リサーチ（ABR） SIGの第1回 ABR 研究会が12月20日に明治大学中野キャンパスにて実施される旨、報告があった。

（5）次回理事会について

2025年11月1日（土）年次大会（北海道教育大学函館校）前にハイブリッドで開催（10:30～11:30）予定

以上

---

## 第11期 第6回理事会（定例）議事録

---

[日 時] 2025年11月1日（土）10:30～11:30

[場 所] 北海道教育大学函館校およびテレビ会議（zoom）で結び

[出席予定者]

[出席者] 会長、理事20名、評議員2名

会長：村上正行

理事：寺嶋浩介、永田智子、池尻良平、市川尚、稻垣忠、岩崎千晶、岸磨貴子、工藤雅之、小林祐紀、今野貴之、佐藤慎一（遠隔）、泰山裕（遠隔）、高橋純（遠隔）、時任隼平、中橋雄、堀田博史、山口好和、山本良太、渡邊光浩、渡辺雄貴

評議員：宇治橋祐之、鈴木克明

事務局：千葉美保子

欠席

理事：佐藤和紀

監事：浅井和行，中川一史

評議員：堀田龍也，小柳和喜雄，黒上晴夫

＜審議・報告事項＞

（1）入会者・退会者について

前回理事会以降の入会者・退会者について説明があり、審議の結果承認された。

（2）編集委員会（国内担当）

『教育メディア研究』(Vol.32, No.1)の編集状況および編集スケジュールに関して報告があった。審議事項として、抜き刷りに関する規程の修正について議論がなされた。他学会の動向も踏まえ、抜き刷りを廃止し、掲載料として今後が徴収することについて議論なされた。値段設定については、これまでの料金体系の踏襲しつつ11ページ以上については2000円の追加で運用していくことで承認された。次号の募集の際に、変更の周知を行う。

（3）編集委員会（国際担当）

論文誌19巻1号の発行について、報告があった。

（4）研究委員会（国内担当）

第1回研究会の実施について報告がなされた第2回研究会は2月22日に中村学園大学での実施予定であることについて報告なされた。

2026年度の開催は、明治学院大学と上越教育大学であることについて報告なされた。

（5）研究委員会（国際担当）

2025年8月7日-9日に韓国で開催されたICoME2025について報告がなされた。

ICoMEの運営メンバーに関して、フィリピンが加わることがおおむね承認された旨の報告がなされた。

次年度ハワイで予定されているICoME2026の開催について報告があった。8月6-9日のうちの3日間で実施される予定である。

CAET（China Association For Educational Technology）との協定連携について話を進めているが、4月理事会報告時からの進展はなく、今後継続協議が行われていく事について報告があった。

（6）広報委員会

学会通信114, 115, 116号の発行および117号の発行予定について報告がなされた。

2026年度の学会通信5月発行の118号の台割が示され、異議なく承認された。

#### (7) 年次大会委員会（小林・稻垣）

今年度の年次大会に関して報告が行われた。

次年度の年次大会は、東京学芸大学附属小金井小学校にて 2026 年 12 月 12 日、13 日を第 1 候補、19, 20 日を第 2 候補として調整予定であることが報告された。

また、次年度の年次大会の理事会については、大会前日に開催する予定であることが報告された。

#### (8) 特定課題研究委員会（SIG）

メディアリテラシー SIG で実施した研究会、次回の予定、ABRSIG が 12 月 20 日に ABR の研究会が予定されていることについて報告があった。

放送教育 SIG で実施した研究会および次回予定について報告があった。

#### (9) その他

学生研究奨励賞について、web にて今後案内ページを作成することが報告された。また、学会 ML でも配信することについて報告がなされた。この大会以降、周知を強化していくことについて、報告がなされた。

企画委員会より、Peatix のアカウント作成について、学会として統一したものを利用するのではなく、企画委員会用で作成して運営していくことについて審議が行われ、承認された。

山口理事より今年度の大会開催に関する挨拶が行われた。

以上

---

## 2025 年度 定例総会 議事録

---

1.日 時：2025 年 11 月 1 日（土）13:00－13:50（年次大会第 1 日目）

2.場 所：北海道教育大学函館校

3.内 容：

#### (1) 議案

議事に先立ち、有効な委任状（議決権を議長に委任）が 58 通電子総会システムより提出されており、総会への参加者が 43 名であり、学会会則第 44 条に従って 2025 年度定例総会が成立していることが報告された。

第 1 号議案：2024 年度事業報告及び収支決算承認の件

第 1 号議案として、機関誌発行、年次大会の開催、学術交流等、Web サイトの改修、2024 年度収支決算（案）が報告された。監事が欠席のため、代理者の村上会長より、監査報告に沿って、通帳、領収書、

帳簿を確認した結果、正確であったことが報告され、審議の結果、2024年度収支決算（案）について、異議なく承認された。

#### 第2号議案：2025年度事業計画及び収支予算承認の件

第2号議案として、機関誌発行、年次大会の開催、学術交流等、特定課題研究（SIG）、2025年度収支予算（案）が報告された。審議の結果、2025年度事業計画及び収支予算（案）について、異議なく承認された。

#### 第3号議案：その他

他の議題はなかった。

#### （2）報告事項

##### ①表彰「日本教育メディア学会論文賞」審査報告と結果報告

「日本教育メディア学会論文」審議経過と結果が報告され、表彰が行われた。

受賞者名：原田真喜子・パリハティグリズバ・渡邊英徳

論文名：異文化情報の偏りへの気づきを促すワークショップの実践

—メンターとの多言語横断検索および印象マップの分析を通じて—

掲載論文誌：教育メディア研究 第31巻第2号

##### ②2026年度年次大会の件

2026年度年次大会を東京学芸大学小金井小学校にて12月の予定で開催することが報告された。

##### ③学生研究奨励賞の制度開始について

学生研究奨励賞の内容について説明があった。

##### ④その他

他の議題はなかった。

---

## 論文投稿のご案内

---

編集委員会

2025 年 8 月 20 日で締め切りました『教育メディア研究』特集号「今後の情報活用能力の育成の意味を問う」(Vol.32, No.2) の論文は、まもなく発刊となります。多くの投稿、ありがとうございました。今後の予定は以下の通りです。

一般論文は随時受け付けております。Vol.33, No.1 は、2026 年 2 月 15 日までの投稿を対象に審査を進め、2026 年 8 月末に発刊を予定しております。Vol.33, No.2 (特集号) は、特集テーマが決まり次第、皆様にご連絡いたします。この号は、2026 年 8 月 15 日までの投稿を対象に審査を進め、2027 年 2 月末に発刊を予定しております。

「投稿規程」(<https://jaems.jp/kitei/>) を熟読の上、「テンプレート・投稿方法」のページから登録と投稿を行ってください (<https://jaems.jp/guideline/>)。多くの会員からの投稿をお待ちしております。

---

## 投稿規程の改訂について

---

編集委員会

「学生会員のみでも論文を投稿できるようにすること」「会員以外にも寄稿を依頼できるようにすること」「項目名を設けて内容を理解しやすくすること」「誤解が生じにくい文章表現に改めること」を目的として、投稿規程全体を見直し、改訂することにいたしました。こちらの内容は、「Vol.32, No.2」以降適用させていただきます (2025 年 7 月 11 日～7 月 16 日・臨時メール理事会にて承認)。

また、本学会の論文誌『教育メディア研究』では、採録となった場合に別刷を 100 部以上購入することが義務付けられてきましたが、J-STAGE 上で無料公開されるようになったことを鑑み、抜刷を廃止することにいたしました。一方で、本誌の編集・制作にはコストがかかることから、採録となった場合に「掲載料」として費用の一部をご負担いただくこととして、投稿規程の改訂を行うことになりました。こちらの内容は、「Vol.33, No.2」以降適用させていただきます (2025 年 11 月 1 日・理事会にて承認)。現在、投稿を受け付け査読中となっている「Vol.33, No.1」までは別刷りを作成いたします。

以上のことにより、改訂された「投稿規程」は Web サイト (<https://jaems.jp/kitei/>) に公開されていますのでご確認ください。以下では、変更点の新旧対応表を示します。

記

旧	新
<u>1. 投稿者</u> (著者もしくは複数の著者のうち 1 名) は, <u>学会の正会員でなければならぬ.</u>	<u>1. 投稿者</u> 投稿者(著者もしくは複数の著者のうち 1 名)は, <u>学会の正会員・学生会員・名誉会員でなければならぬ.</u> ただし, 編集委員会の依頼によるものについて, この限りではない.
<u>2. 投稿原稿は, 和文による研究論文 (Original Paper), 研究ノート (Research Note), 実践研究 (Practical Research), その他とする.</u>	<u>2. 投稿原稿の種別と内容</u> 投稿原稿は, 和文による研究論文 (Original Paper), 研究ノート (Research Note), 実践研究 (Practical Research), その他とする.
<u>3. 投稿原稿は未発表のものに限る.</u>	<u>3. 研究倫理</u> (1) <u>二重発表の禁止</u> 投稿原稿は未発表のものに限る.
<u>4. 投稿論文等の内容と記述が, 他者の著作権や研究に関わる者の人権を侵害せず, 「科学者の行動規範」に反しないよう, 十分に配慮されていること. 後述の「11. 科学者の行動規範と不正行為の禁止」(2) 不正行為の禁止に該当しないこと. 本学会に投稿された論文等が, 権利等の権利を侵害していないことを保証するものとする. 本学会に投稿された論文等が, 第三者の権利等の侵害に起因する問題を生じさせた場合, 当該論文等の著作者が一切の責任を負うものとする.</u>	<u>(2) 他者の権利への配慮</u> 投稿論文等の内容と記述が, 他者の著作権や研究に関わる者の人権を侵害せず, 「科学者の行動規範」に反しないよう, 十分に配慮されていること. 後述の「10. 科学者の行動規範と不正行為の禁止」(2) 不正行為の禁止に該当しないこと. 著作者は, 本学会に投稿された論文等が, 他者の権利を侵害していないことを保証するものとする. 本学会に投稿された論文等が, 他者の権利の侵害に起因する問題を生じさせた場合, 当該論文等の著作者が一切の責任を負うものとする.
<u>5. 投稿論文と関わって, その過程全般および成果の公表方法, 終了後の対応等について研究対象者及び協力者に対して説明を行い, 理解されたかどうかを確認し, 同意を得ること.</u>	<u>(3) 関係者への説明義務の履行</u> 投稿論文の研究対象者および協力者に対して, 研究の過程全般および成果の公表方法, 終了後の対応などについて説明を行い, 理解されたかどうかを確認し, 同意を得ること.
<u>6. 投稿方法</u>	<u>4. 投稿方法</u>
<u>7. 投稿論文の構成</u>	<u>5. 投稿論文の構成</u>
<u>8. 版組・書式</u>	<u>6. 版組・書式</u>
<u>9. 注・引用・参考</u>	<u>7. 注・引用・参考</u>
<u>10. 採録後の別刷</u> 採録の場合は, 執筆者, 執筆者が所属する機関等が別刷を 100 部以上購入すること.	<u>8. 投稿料</u> 採録の場合は, 執筆者, 執筆者が所属する機関等が以下に定める投稿料を支払うこと.

<u>別刷り代金</u>	<u>投稿料</u>
6 ページまで 10,000 円	6 ページまで 10,000 円
7 ページ 12,000 円	7 ページ 12,000 円
8 ページ 14,000 円	8 ページ 14,000 円
9 ページ 16,000 円	9 ページ 16,000 円
10 ページ 18,000 円	10 ページ 18,000 円
<u>11 ページ以上 20,000 円</u>	<u>11 ページ以上 1 ページ増えるごとに 2,000 円追加</u>
<u>11. 採録後の著作権</u>	<u>9. 採録後の著作権</u>
<u>12. 科学者の行動規範と不正行為の禁止</u>	<u>10. 科学者の行動規範と不正行為の禁止</u>
<u>13. 不正行為が議題に上がった場合は、以下の「不正行為に対する対応と防止に関する規則」に沿って編集委員会で検討し、対処する。</u>	<u>11. 不正行為が議題に上がった場合は、以下の「不正行為に対する対応と防止に関する規則」に沿って編集委員会で検討し、対処する。</u>

以上

---

## 学会費納入のお願い、入会者・退会者

---

### ◆ 学会費納入のお願い ◆

<納入のお願い>

2025年度（2025年4月1日～2026年3月31日）の年会費（正会員7,000円、学生会員4,000円）が未納の方は、会員システムからお手続きください。学会HPの「会員マイページ」よりアクセス可能です。事務手続きの漏れを防ぐためにも、会員システムを通じたお支払いにご協力ください。

銀行振り込みをご希望の場合、下記口座にお振り込みいただくようお願いいたします。

<送金先>

銀行名：ゆうちょ銀行  
種目：普通  
店番：418  
店名：四一八店（ヨンイチハチ店）  
口座番号：0865850  
名義：日本教育メディア学会（ニホンキヨウイクメディアガッカイ）

※ゆうちょ銀行口座からの振り込みの場合は、下記記号番号をご利用ください。

記号：14160  
番号：8658501

- ※ 振込手数料は、ご負担ください。ゆうちょ銀行口座からATMを使って納入いただく場合、手数料は無料です。
- ※ ご自身のゆうちょ銀行口座以外から振り込む場合は、振込人名義を「学会名簿に登録した会員氏名」にしてください。それが出来ない場合は振込後、事務局にメールでご連絡ください。
- ※ 過年度年会費をまとめて振り込む場合には、学会事務局にご連絡ください。
- ※ 学生会員は、会費納入に併せて年度ごとに学生証などの証明書類のスキャンまたは写真データを会員システム経由で事務局宛に提出してください。卒業・修了などにより学生会員の条件を満たさなくなった場合は事務局にメールでお知らせください。

### ◆ 登録情報更新のお願い ◆

本学会では、「学会通信」および重要なお知らせを電子メールで会員に配信しております。また、学会論文誌「教育メディア研究」をご登録の住所に郵送しております。メールの不達、年度末の学会誌の返送が複数発生しております。確実にお届けするために、定期的に会員マイページにログインの上、登録情報の確認をよろしくお願いいたします。

また、まだ会員システムからマイページへのログイン登録がお済みでない方も、この機会にマイページ登録（<https://jaems.jp/admission/mypage/>）をお願いいたします。

### 【入会者・退会者・除籍者・会員種別変更】※敬称略

入会者・正会員（13名）・・・赤塚邦彦、長谷川壮太、池ノ谷智紀、大橋拓、山内雅雄、若月陸央、邊見信、高田昌裕、青野也寸志、山元有子、酒井美佐緒、遠藤みなみ、堀田雄大

入会者・学生会員（12名）・・・張凱, 永谷ひかり, 関谷優衣, 平石雄大, 津田奈々, 首藤孟,  
大久保奏佑, 関穂乃佳, YANLIYING, 若林雅子, 久保穂ノ花, 郭楊帆  
退会者・正会員（1名）・・・恩田 真衣  
会員種別変更 学生会員→正会員（1名）・・・中村謙斗

---

## 第9条

会員の会費の滞納による除籍については、以下のように定める。

- (1) 正会員、学生会員、団体会員ならびに購読会員が、会費を3年間滞納したとき、その年度末をもって除籍され、会員の資格を喪失する。
  - (2) 除籍された元会員が再入会するとき、滞納会費の納入を要する。
- 

会員総数 440名・12団体

名誉会員：9名\*

正会員：352名

学生会員：88名

団体会員：6団体

購読会員：6団体

（2026年1月12日 現在）

\*会員総数に含まず。9名の氏名は学会HPにて公開。

## ◆ 学会通信アーカイブ作成ご協力のお願い ◆

本学会は定期的に学会通信を発行し、学会HPにて公開しています。現在、一部未公開となっている学会通信も揃えられるよう、学会事務局では以前の学会通信を探しております。お手元に第1-16, 18, 27号が紙もしくはデータ等で残っている場合、学会事務局(office@jaems.jp)までお知らせください。ご協力の程、何卒よろしくお願ひいたします。

<p><b>日本教育メディア学会 事務局</b></p> <p>〒739-8524 広島県東広島市鏡山1丁目1番1号 広島大学教育学部 A棟4階402号室 池尻良平研究室 日本教育メディア学会事務局 宛</p> <p>E-mail : office@jaems.jp 学会ホームページ URL : <a href="http://jaems.jp/">http://jaems.jp/</a></p>	<p><b>広報委員会</b></p> <p>委員長 市川尚（岩手県立大学） 副委員長 泰山裕（中京大学） 委員 高橋暁子（千葉工業大学） 委員 尾崎拓郎（大阪教育大学） 委員 谷塚光典（信州大学） 委員 村川弘城（日本福祉大学）</p>
--	---